

主 題：

神聖なエコノミーのための 神聖な三一の神聖な分与

標 語

全宇宙で、唯一の永遠の祝福は、わたしたちが命の霊の内住する自動的な法則を享受することによって、神聖な三一の中でご自身をわたしたちの中へと分与する三一の神です。それは、キリストのからだの建造のためであって、その目標は、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とならせ、彼の永遠のエコノミーの目標である新エルサレムを完成することです。

わたしたちはみな、その霊(聖なる息)を呼吸し、同じ霊の飲み物(すべてを含む、命を与える霊としてのキリスト)を飲み、神のパン(まことのパン、天のパン、命のパン、生けるパン)としてのキリストを食べることによって、神聖な三一の神聖な分与を経験し、彼で構成されることができます。それによって、わたしたちは彼を表現し、代行することができます。

わたしたちはキリストにある信者として、ただ主を愛し、自分自身を主に開き続け、主が行ないたいあらゆることを行なうあらゆる機会を主に与える必要があります。またわたしたちは、神聖なエコノミーの奇跡的で正常なことにしたがって、神聖な三一の神聖な分与の中の、規則正しく、正常な経験において、通常の日々の生活をもって満足する必要があります。

聖書の六十六巻の啓示全体によれば、神聖な三一(父、子、霊)は、神の分与のためです。すなわち、神を彼の選ばれた人の中へと分配するためです。神が三一であるのは、彼がご自身をわたしたちの中へと分与し、ご自身をわたしたちの中へと造り込み、わたしたちに享受させることができるためです。それによってわたしたちは建造されてキリストのからだとなり、キリストの再来のためにキリストの花嫁となる用意を整えることができます。キリストの再来のとき、世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となり、彼は永遠にわたって王として支配します。

メッセージ 1

三一の神の永遠の祝福は、
わたしたちの中へともたらされる神聖な三一の神聖な分与を通して、
ご自身の神聖なエコノミーを完成する

聖書：民 6:22-27． IIコリント 13:14． 啓 22:1-2

- I. 全宇宙で、唯一の祝福は三一の神です。この祝福は、わたしたちの中へともたらされる神聖な三一の神聖な分与を通してわたしたちに臨んで、わたしたちの享受となり、神の神聖なエコノミーを完成します：
- A. 神の永遠のエコノミーとは、彼の家庭の行政であり、それは神がキリストにあって、彼の選ばれた人の中へご自身を分与し、家を得てご自身を表現するためです。この家は召会、キリストのからだです。神の永遠のエコノミーは、神の永遠のご計画であり、神の神聖な分与は、神がご自身の計画を完成する手段です—— I テモテ 1:3-4． 3:15． ローマ 12:5． エペソ 1:10． 3:8-9． 2:10。
- B. 神の神聖な分与は、信者たちを^{かみか}神化して、彼らを神格においてではなく、命と性質において神とします。それは、キリストのからだとしての召会を建造するためであり、またキリストの花嫁を用意してキリストの王国をもたらすためです。この定められた御旨のために、神は人と成って、ご自身を「人化(man-ize)」しました。それから、彼はご自身を命としてわたしたちの中へと分与して、わたしたちを「神化(God-ize)」しておられます。
- C. 神のエコノミーにおける神の意図は、彼の神聖な三一(父、子、霊)の中へご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することです。時間における神の唯一の目標は、日ごとにご自身をわたしたちの中へと分与することです。
- II. 民数記第 6 章 22 節から 27 節でわたしたちは、祭司による祝福の模範を見ます。この祝福は、旧約の祝福でもなく、新約の祝福でもありません。むしろ、それは三一の神の永遠の祝福です。すなわち、三一の神が彼の神聖な三一の中で、ご自身をわたしたちの中へと分与し、わたしたちの享受となることです：
- A. 「エホバがあなたを祝福し、あなたを守られますように」は、御父と関係があると見ることができます——民 6:24：
1. 御父は彼の愛の中で、あらゆる方法とあらゆる面でわたしたちを祝福し(参照、エペソ 1:3)、また彼の力の中で、あらゆる方法とあらゆる面でわたしたちを守ります(参照、ヨハネ 17:11, 15)。
 2. 主は、御父が彼の御名の中で、わたしたちを守ってくださるようにと祈りました(11 節)。これは、分与する三一の神の中でわたしたちを守るこ

とです。主イエスは続けて、御父がわたしたちをあの邪悪な者から守ってくださるようにと祈りました(15節)。

3. わたしたちは、三一の神の分与の中で絶対的に守られるという祝福のために、またあの邪悪な者から完全に守られるという祝福のために祈るべきです。これは何という祝福でしょう！
- B. 「エホバが御顔(face)をあなたの上に輝かし、あなたに対して恵み深くありますように」は、御子と関係があると見ることができます——民6:25：
1. ルカ第1章78節で、主イエスが生まれようとしていたとき、ザカリヤは、「昇る太陽が高い所からわたしたちを訪れ」と予言しました。この昇る太陽は、神聖な三一における御子です。これが暗示するのは、神が肉体と成ることが、輝く方法でご自身をわたしたちに示すということです——マタイ4:16．ヨハネ8:12。
 2. 民数記第6章25節の「御顔」という言葉は、臨在を表徴します。御子キリストは、その御顔がわたしたちの上に輝く方として、見えない神の見える臨在です——Ⅱペテロ1:16-18．マタイ17:1-2。
 3. 民数記第6章25節は、エホバが御顔をわたしたちの上に輝かすことについて語っているだけでなく、エホバがわたしたちに対して恵み深くあることについても語っています。この二つの点を一緒にすると、ヨハネ第1章14節、16節から17節と等しくなります。
 4. 神が肉体と成ることは彼の臨在の輝きであり、この輝くことと共に恵みがありました。この恵みは主イエス・キリストの恵みであり、実はキリストご自身です——Ⅱコリント13:14。
- C. 「エホバが御顔[の表情](countenance)をあなたに上げ、あなたに平安を与えられますように」は、その霊と関係があると見ることができます——民6:26：
1. 顔(face)は人の臨在を示し、顔の表情(countenance)は人の表現を示します。顔を人に上げることは、その人に確証し、保証し、約束し、すべてを与えることを意味します。
 2. イエスは神の御顔として来ました。聖霊は神の御顔の表情として来ます。もしわたしたちが彼を悲しませるなら、彼は御顔の表情を伏せますが(エペソ4:30)、わたしたちが彼に服従するなら、彼はわたしたちに対して幸いであり、彼の御顔の表情を上げて、わたしたちに確証し、保証し、担保し、約束し、すべてをわたしたちに与えます。

Ⅲ. Ⅱコリント第13章14節の祝福は、民数記第6章22節から27節の祝福と

同じです。これは三一の神の永遠の祝福です。それは、三一の神が彼の神聖な三一の中でご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの享受となることです——「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように」:

- A. 「エホバがあなたを祝福し、あなたを守られますように」は、命と光との源としての父なる神の愛です——民 6:24. 詩 36:8-9。
 - B. 「エホバが御顔をあなたの上に輝かし、あなたに対して恵み深くありますように」は、神の家の脂肪分としてのキリストの恵みです——民 6:25。
 - C. 「エホバが御顔[の表情]をあなたに上げ、あなたに平安を与えられますように」は、神の楽しみ[の表情]としての聖霊の交わりです——26 節。
- IV. 主の恵みは、わたしたちの命としての主ご自身であり、わたしたちの享受となります(ヨハネ 1:17. I コリント 15:10)。神の愛は、神ご自身であり (I ヨハネ 4:8, 16)、主の恵みの源です。その霊の交わりは、その霊ご自身であり、主の恵みと神の愛との伝達であって、わたしたちにあずからせます——II コリント 13:14 :
- A. II コリント第 13 章 14 節で主の恵みが最初に述べられているのは、この書がキリストの恵みについてのものであるからです——II コリント 1:12. 4:15. 6:1. 8:1, 9. 9:8, 14. 12:9。
 - B. 聖霊は、キリストの恵みと御父の愛との循環、伝達であり、わたしたちのクリスチャン生活と召会生活における供給です：
 - 1. 召会生活全体は、II コリント第 13 章 14 節にかかっています。
 - 2. II コリント第 13 章 14 節で啓示されている、わたしたちの内側の神聖な三一の流れは、わたしたちの霊的命脈です。
 - C. II コリント第 13 章 14 節の使徒パウロの祝福において、三一の神が人に臨み、彼らの享受となります。パウロは人を神の臨在の中へともたらしただけでなく、また神を人の中へともたらしました：
 - 1. 一方で、他の人を祝福することは、彼らを神の臨在の中へともたらすことです。もう一方で、それは神を愛、恵み、交わりとして彼らの中へともたらし、彼らが三一の神(父、子、霊)を享受することです。
 - 2. 愛、恵み、交わりは、わたしたちの享受のための神の三つの段階です。愛は内側のものであり、恵みは愛が表現されることであり、交わりは恵みをわたしたちの中へと伝達することです。
 - 3. 神の愛は源です。なぜなら、神は起源であるからです。主の恵みは神の愛の経路です。なぜなら、主は神の表現であるからです。その霊の交わり

りは主の恵みを神の愛と共に分け与えて、わたしたちに三一の神(父、子、霊)を、三一の神の神聖な美德と共に経験させ享受させることです。

4. 聖なる御言における神聖な三一の神聖な啓示は、神学上の研究のためではありません。それは、どのようにして神が彼の奥義的で驚くべき神聖な三一の中で、ご自身を彼の選ばれた人の中へと分与し、わたしたちが彼の選ばれ贖われた人として、コリントの信者たちに対する使徒の祝福によって示されているように、今も、また永遠に至るまでも、手順を経た三一の神にあずかり、彼を経験し、享受し、所有するかを、わたしたちが理解するためです。わたしたちは、手順を経た、内側で循環する三一の神を日ごとに享受し、彼をもって祝福されて、彼を宇宙の唯一の祝福として他の人の中へと分与し、イエスの証し、すなわちイエスの団体的な表現を得るといふ神の心の願いを完成しなければなりません——Ⅱコリント 13:14. ガラテヤ 3:14. 創 12:2. ピリピ 1:25. 啓 1:2, 9-12。

V. 新エルサレムには、「水晶のように輝く命の水の川……は神と小羊の御座から……流れていた。その川のこちら側にも向こう側にも命の木があつて」——啓 22:1-2 前半：

- A. 永遠において、御座に座している神は、小羊・神、すなわち、わたしたちを贖う神であり、彼の御座から命の水の川が流れ出て、命の木と共に、わたしたちの供給また満足となります。
- B. ともし火としての小羊は、光としての神をもって輝き、神の栄光、すなわち神聖な光の表現をもってその都を照らします——啓 21:23. 22:5。
- C. 三一の神(神、小羊、命の水によって象徴されるその霊)は、彼の頭首権(御座の權威において暗示される)の下で、永遠にご自身を彼の贖われた人の中へと分与します。
- D. 新エルサレムの大通りは純金です(啓 21:21)。命の水の川はその大通りの中央を流れています(22:1)。金は神の神聖な性質を象徴しているので、神聖な命が神聖な性質の中で流れて、神の贖われた人の日常生活のための唯一の道になることを、わたしたちは見ることができます。
- E. 新エルサレムは、聖書の全記録の究極的完成であり、神ご自身を彼の神聖な三一(父、子、霊)の中で、彼の選ばれ、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された人と結合し、ミングリングし、合併して、彼らの永遠の祝福となります。このような祝福は、民数記第 6 章におけるイスラエルに対する神の祝福の究極の成就です——参照、啓 21:3, 12, 14, 22.

22:1-2。

- VI. 「ときどきわたしたちが自分の状況を考えると、失望し、自分には何もないと感じるかもしれません。それはわたしたちにとって、太陽の下にあるすべてのもの、霊的な領域におけるすべてのものでさえ、空の空であるかのように。わたしたちは、召会生活の中でさえ、何も実際ではないと感じるかもしれません。わたしたちはこのように感じるとき、どうすべきでしょうか？ わたしたちは三一の神に戻るべきです。彼はわたしたちの実際の祝福と分け前です。彼を祝福として持つとは何という祝福でしょう！彼の御顔、彼の臨在を持って、彼を日ごとに恵みとして享受するとは何という祝福でしょう！ わたしたちは苦しみを受ければ受けるほど、ますます彼を恵みとして享受します。彼の御顔の表情がわたしたちの上で微笑んで、わたしたちに保証し、確証するとは何という祝福でしょう！ 彼の中で、彼によって、彼と共に平安を持つとは何という祝福でしょう！ これはわたしたちの祝福としての三一の神です。おお、キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にありますように！」——「民数記ライフスタディ」、第11編。